

ロシア軍の大佐、イエスを見出す

1940年代の共産主義下のルーマニアで地下教会の指導者だったリチャード・ウルムブランドは、ロシアに住んでいたころ、あるロシア軍の大佐と出会いました。



わたしは、神についてもっと知りたい。神を愛しているが、神について、何も知らないんだ！

聖書を見たことがないのですね。わたしが、神の御子であるイエスの言葉やたとえ話を読んで差し上げましょう。イエスは、御自身を信じる者すべてに救いを与えるために、この地上にやって来られたのです。

「この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとに来た。そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。

『心の負しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。悲しむ者は幸いです。その人はなぐさめられるからです。』

『柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。義にうえがわいている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。』¹

イエスは多くのことを、彼らにたとえて話して聞かされた。『種を蒔く人が種蒔きに出かけた。……』²

¹ 新改訳聖書、マタイの福音書 5:1-6
² 新改訳聖書、マタイの福音書 13:3

イエスの口から直接
お言葉を聞いた人々はきつと、
非常に喜んだことだろうね。

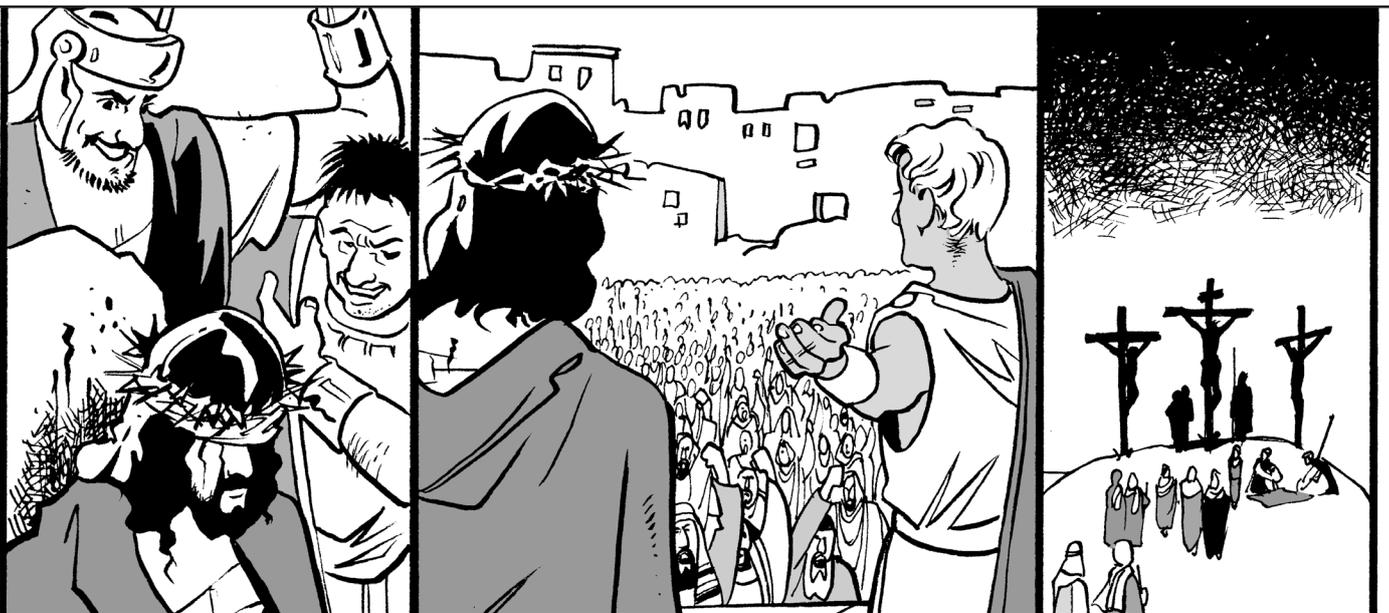
リチャードが、イエスの話されたたとえ話を
大佐にもっと読んで
聞かせると・・・

じっとしてはおられない。

うれしくておどりたいくらいだよ！
何て美しいんだ！このキリストを知らずに、
一体どうやって生きていくことが
できようか？

はい、彼には大勢の弟子たちが
いました。ですが、すべての人が喜んで
いたわけではありません。たった3年間の
活動の後・・・ここに書かれています。
読んで差し上げましょう。

「そこで、ピラトはイエスをとらえて、むちで打たせた。兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫の上着を着せた。それから、その前に進み出て、『コタヤ人の王、ばんざい』と言った。そして平手でイエスを打ち続けた。ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。『よく聞きなさい。わたしはこの人をあなたがたの前に引き出すが、それはこの人に何の罪も見いだせないことを、あなたがたに知ってもらうためである。』



イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで外へ出られると、ピラトは彼らに言った、『見よ、この人だ。』
祭司長たちや下役どもはイエスを見ると、叫んで『十字架につけよ、十字架につけよ』と言った。こうして、彼らは
イエスを引き取った。イエスは自ら十字架を背負って、されこうべ（アラム語ではゴルゴダ）という場所に出て行かれた。
彼らはそこで、イエスを十字架につけた。イエスを真ん中にして、ほかの二人の者を両側に、イエスといっしょに
十字架につけた。』³



わたしは、^{すくぬししん}救い主を信じていたのに・・・^し救い主が死んでしまうとは！

^{おどろ}驚かせてしまったようだ！



^{とも}友よ、そんなに^{かな}悲しませてしまって、^{もう}申し訳ありません。ですが、^{はなし}話にはまだ^{つづ}続きがあります！^き聞いてください！^{つぎ}次をお読みしましょう！



「さて、^{あんそくにち}安息日が終わって、^{しゅう}週の^{はじ}初めの^ひ日の^あ明け方に、^ママグダラの^ママリヤと^ももう^{ひとり}一人の^ママリヤが、^{はか}墓を^み見に行った。

すると、^{おお}大きな^{しん}地震が^お起こった。それは、^{しゅ}主の^{つか}使いが^{てん}天から^お降りて^き来て、^{いし}石を^わわきへ^{ころ}転がし、^{その}その上^うに^すすわったからである。

^{すがた}その^{いなずま}容は^か稲^が穂^のように^{ゆき}輝き、^{まっしろ}その^{ころも}衣は^{ゆき}雪の^{よう}に^ま真^{しろ}白であつた。^み御^{つか}使いは^{おんな}女^{たち}たちに^い言つた、「^おおそれる^{こと}は^なない。^ああなた^がた^がが^じ十字架^{にお}か^がり^{にな}つた^{イエ}スを^{さが}さがしている^{のは}わが^つつている^が、^ももう^こここ^{には}お^られ^ない。^よよみ^がえ^られた^ので^ある。



さあ、^{イエ}イエスが^お納^めら^れて^いた^ば場所^をを^こら^んな^さい。そして、^い急^{いで}行^つて、^て弟^子たち^にこ^う伝^えな^さい。[「]「^{イエ}イエスは^し死^んの^なか^らよ^みが^えら^れた。[」]」



すると、^{イエ}イエスは^い言^われた。[「]「^おおそれる^{こと}は^なない。^い行^つて、^わわた^しの^き兄^弟たち^にガ^リラ^ヤへ^い行^くよ^うに^い言^ひな^さい。そ^こで^わわ^たし^にあ^いひ^あは^らう。[」]」⁴

そこで^お女^{たち}は^おおそれ^なが^らも^お大^き喜^びで、^い急^{いで}墓^を立^ち去^り、^て弟^子たち^にし^らせ^るた^めに^は走^つて^いつ^た。すると、^{イエ}イエスが^ああ^れら^れた^女々^にあ^いひ^あは^らう、[「]「^おおは^{よう}。[」]と^い言^われた。^ああ^れら^れた^女々^はち^かよ^ろと^ああ^いひ^あは^らう^て、^{イエ}イエスを^おお^かか^いた。

⁴ マタイによる福音書 28:1-3, 5-10 参照



主は生きておられる！
生きておられるんだ！ わが救い主、
わが主イエスは生きて
おられる！

神よ、あなたは
何て素晴らしい方なんでしょう！
もしわたしがあなたでしたら、そして
あなたがわたしでしたら、わたしは
決してあなたの罪をゆるしては
いなかったでしょう。

いの
祈りましょう。

ですが、あなたは
わたしの罪をゆるしてくださいました。
だからこそ、わたしは救われ、あなたを
知るという、とてつもない喜びに
満たされているのです。

大佐はひざまずいて、生まれて初めての
いの
祈りをしました。

MWSスタッフより

イースターは、イエス様が地上で生きられたこと、そして全人類に救いをもたらされたことを物語っています。
主の真の目的は、死からよみがえられた時に始まりました！ 十字架上で死に、また死からよみがえることによつて、主は、わたしたちが神との近いきずなを築くための真つ直ぐな道を用意されたのです。主の十字架上の死は悲しいものですが、イースターには、イエス様がよみがえられたこと、わたしたちの罪をゆるし、死に打ち勝つて、わたしたちに天国への入り口を与えてくださったことを思い出して、喜ぶ機会としましょう。

いの
祈り：イエス様、わたしたちといっしょに暮らすために来られ、あなたのように生きることを教えてください。くださったことを、感謝します。わたしたちがゆるされ、安心してあなたの近くで暮らせるように、十字架の荷を負われ、死と罪に打ち勝つてくださったことを感謝します。あなたは、実に素晴らしい方です！